

稲門乗馬会報 ～いななき～

# 稲啼

2013 秋号

発行: 稲門乗馬会

〒202-0021 東京都西東京市東伏見 3 丁目 4-67

TEL・FAX: 042-467-5790

<http://whrc1927.wordpress.com>

E-mail: [whrc1927@gmail.com](mailto:whrc1927@gmail.com)



## 35年振り六大学優勝

春の競技シーズンの振り返りとして、東京六大学馬術大会および関東学生馬術大会についてレポート致します。

第66回東京六大学馬術大会は、3月29日～31日にJRA馬事公苑で行なわれました。今回は昨秋新聞紙上を賑わせた不祥事により明治大学が参加できず、五大学により争われることとなりました。

初日29日～30日にかけて行われた複合競技では、神下OBの厚意により補強した稲隆(旧名ニードルドウバーベル、2010年広州アジア大会団体金メダル馬)が五十嵐裕哉(創造理工3、以下学年は新年度)を背に活発な演技を見せ、馬場減点50.7

点(得点率66.21%)、障害減点0で優勝しました。また、同じく昨年末に補強したアイシングラー(2011年度全日本総合馬術選手権馬)

も畠山聖（スポ3）とのコンビで2位に入り、大澤佳純（教育2）と稲帥も5位に入賞しました。

30日に行なわれた新人馬場馬術競技では、同じく神下OBのご厚意により馬場部門を補強した稲武（旧名シヤハル）と長尾圭祐（社学4）が得点率59.928%で優勝しました。後藤寛佳（政経2）とリアルヴィジョンが3位入賞、三宅紘一（政経4）とコーラルウインドも4位に、暮地景介と稲麟も6位にそれぞれ入りました。

同じく30日に行なわれた学生賞典馬場馬術競技では、畠山とリアルヴィジョンが馬体の調子を戻して来て55.972%で4位に、長尾と稲武は54.611%で9位に入りました。

31日に行なわれた新人障害飛越競技では、稲田からは大澤と稲帥、栗栖美和（人科3）と稲斗の2頭の参加となりましたが、それぞれ完走して大澤が4位に、栗栖が5位に入賞しました。

その後行われた中障害飛越競技では、畠山とアイシングラー、長谷部悦郎主将（法4）とGグラナダが減点0、五十嵐と稲隆がタイム減点1のみで早稲田の人馬が1-3位を独占しました。

これら結果により、団体成績では早稲田が123点で昭和53年以来35年振りの団体優勝、2位立教79点、3位慶應42点と続きました。昭和55年以来33連覇をしていた明治大学が出場できなかったということがあります。35年振りの勝利をまずは喜びたいと思います。

## 六大学・関東学生を終えて

主将 長谷部悦郎

六大学は、照井前主将をはじめ、これまで早稲田の馬術部を牽引してきた世代が引退してから臨む最初の大きな学生戦でした。人馬の戦力ダウンを防ぐべく、今大会に先駆けて馬匹の補強を行い、総合馬を2頭、馬場馬を1頭入厩させました。購入にあたりご支援を頂きました、OB・OGの皆さまにこの場を借りて御礼申し上げます。

今大会は明治大学が欠場するということもあり、35年ぶりに優勝することができました。強豪校が不在の中、チャンスを確実にものにしたということはチームとしての自信につながったと思います。一方で、馬場を中心に勝

きれない部分や弱点が明確化したことは優勝以上に意味のあることであつたかもしれませぬ。

六大学優勝の勢に乗って関東学生でも結果を出したいところではあつたものの、初日の障害から躓いてしまいました。自分自身不甲斐ない結果でチームに迷惑をかけてしまったことは非常に悔やまれます。同時に、落とせない試合で結果を出せない実力及び経験不足、未熟さや甘さを痛感しました。馬場も六大学からの不安を解消することはできず、全日本の団体枠を獲得できませんでした。総合では何とか全頭を埋めるほどではありませんでした。

もちろん今後の課題は出場権利を獲得できた全日本学生で今回のミスを克服し、修正することです。それと同時に、来年あるいはその先につながる長期的な視野で下級生を育成していくことにあります。セレクションがない現状、現役部員をいかに学生戦で通用するレベルに向上させていくかが鍵になります。まだまだ未熟なチームではありますが、OB・OGの皆さまのお力もお借りし、チーム早稲田として一丸となって、さらに上を目指していきたいと考えております。今後ともご指導ご支援をよろしくお願い致します。



## 関東学生3種目総合団体5位

早稲田大学馬術部監督児玉彰

6月27日〜30日には、関東学生三大会がJRA馬事公苑で行なわれました。

6月27日(木)初日の障害馬術では、4人馬で二回走行に挑みました。

第1回走行、早稲田のトップバッターは畠山聖とアイングラードです。序盤のトリプルで踏切を間違えて反抗、再行するも飛び付かず2反抗失権となつてしまいました。障害では能力はありますが難しいところがある馬で、その面が出てしまいました。続く2番手の長谷部悦郎とGグラナダも2反抗失権となつてしまいました。この時点で早稲田の団体チームの可能性はなくなりました。3番手は大澤佳純と稲帥です。4落下、減点16でゴールしました。4番手は五十嵐裕哉と稲隆です。

2落下、減点8でゴールしました。1回目走行が終わった時点で、減点0は5人馬でした。

午後13時15分より、第2回走行が行われました。出番順は第1回走行と同じで、畠山は総合に影響を残さないうえ、また長谷部は馬の故障により棄権しました。大澤と稲帥は2落下減点8でゴールし、1回目と合わせて減点24となりました。五十嵐と稲隆は1落下減点4でゴールし、1回目と合わせて減点12となりました。

団体成績は、優勝専修減点8、2位明治減点12、3位が優勝候補だった日大減点20となりました。当部は2頭の失権および棄権により(団体成績は付かず)、2008年以来5年連続して2位以上に入賞していた地位を明け渡してしまいました。個人成績は、優勝柿澤(日大)と桜鎧、2位見目(専修)とボサノバ、3位清水(東京農業)とスーパースニックで、当部の五十嵐は17位、大澤は23位という結果でした。



6月28日(金)には馬場馬術競技を行ないました。本年は38人馬によって競われました。当部の1番手の畠山聖とリアルヴィジョンは、ここ2〜3年速歩運動のイレギュラーに苦勞していますが、今回はうまく運動を調和さ



せてイレギュラーを目立たせず、駆歩ピルエツトなど得意の駆足運動の出来も良く、56.860%で17位となりました。ただ、上位の人馬と比べるとインパルジョン不足は明らかであり、更に運動の調和に努めてもらいたいと思います。2番手の長尾圭祐と稲武は、速歩運動ではそれなりに運動しておりましたが、駆足の踏歩変換やピルエツトでかなりの反抗が見え、結果的には51.583%で31位となつてしまいました。高度な運動をこなすには、人馬の相互理解が欠けていたように思います。3番手の五十嵐裕哉とファイネスは、今年当初より馬体の調子が良くななく、今年初めての競技がこの関東学生となつてしまいました。速歩のリズムなど、この馬本来のものとは



遠いものがあり、また以前から不得意としている  
 駆歩運動でも失敗があり、56.333%で21  
 位となりました。全日本学生までにはまずは馬体の  
 調子を戻し、上位に入ってほしいと思います。

最終結果は、個人では優勝は柿澤（日大）と桜  
 憧66.638%、2位香田（明治）と明菱61.  
 638%、3位小林（専修）とフィロソファー6  
 1.249%でした。団体では、1位：日大、2  
 位：明治、3位：専修で当部は団体7位でしたが、  
 個人21位以上である全日本学生出場枠圏内に  
 は、2人馬が入りました。

6月29日（土）～30日（日）最終種目であ  
 る総合馬術が行なわれました。当部は4人馬で臨  
 みました。五十嵐裕哉と稲隆は実力を発揮し、馬  
 場65.06%で減点52.4、野外減点0、障  
 害1落+タイム減点1の減点5、合計減点57.  
 2で個人4位に入賞しました。畠山聖とアイシン



グラーは馬場61.38%で減点57.9、野外  
 減点0でしたが、障害でトリプルの入りに躊躇し  
 1反抗1落下、タイム減点10を加えて障害の減  
 点18で合計減点75.9となりました。しかし、  
 野外の減点0は当部の2人馬を含めて全体で6  
 人馬のみであり、野外での馬のクオリティの高さ  
 を確信できました。長谷部悦郎と稲帥は、馬場5  
 2.64%で減点71.0、野外1反抗+タイム  
 減点で減点58、障害は5落下で減点20、合計  
 減点149.0となりました。大澤佳純と稲玄は、  
 52.07%で減点71.9、野外は減点123.  
 6、障害は減点27と減点は多くなりましたが合



計減点222.5で完走しました。その結果、団  
 体では優勝専修、2位明治、3位日大に次ぐ団体  
 4位となりました。個人では、優勝大森（明治）  
 と明鳳、2位串間（日大）とセントリービジョン、  
 3位見目（専修）とエンドローペローとなりました。  
 以上の結果から、3種目団体総合では1位日大、  
 2位明治、3位専修、4位立教に次ぐ5位となり、  
 昨年の4位から一つ順位を落とす結果となって  
 しまいました。11月2日（土）～6日（水）世  
 田谷JRA馬事公苑で行われる全日本学生馬術  
 大会では、障害3人馬、馬場2人馬、総合4人馬  
 の合計9人馬の出場枠を得られました。稲門会員  
 の皆さまには、今までも増してのご声援・激励  
 をお願い申し上げます。

### 関東学生大会を終えて

3年 五十嵐裕哉

5月31日から6月2日に向け、関東に向けての調整で全日本ヤング総合に出場しました。初日の調教審査は演技にメリハリがなく、ひとつひとつの項目で点数を取りこぼしてしまつたため5位と出遅れてしまいました。2日目の耐久審査では馬本来の力を発揮して、7人中3人馬が失権したほどの難コースを減点0

でまわってくることができました。最終日の余力審査では油断が入り、1つの障害で落下がありました。優勝することが出来ませんでした。ヤングでの勝利に続けと6月27日から30日にかけて臨んだ関東学生でしたが、結果から言うとその勢いに乗ることは叶いませんでした。

障害団体については、稲隆並びにアイシングラーをメインに据えることで昨年度に比較しての戦力差を埋めようと試みましたが、1走目において2人馬が失権し、この時点で団体成績が伸びないことが確定したため、失権した2人馬は棄権しました。その結果、団体成績は8位と、残念な結果に終わりました。しかし、2走目で大澤&稲帥が2落下で帰って来たことは、次回につながる良い経験となったと思います。

馬場ではフアイネス自身の持つクオリティを引き出すことができず、思うような結果を残せず、また全学で団体が組めないという悔いの残る結果に終わってしまいました。総合では、調教審査で思ったような演技ができなかったため、パーセンテージが伸びず出遅れて4位に終わりました。しかし、昨年度は2頭しか帰ってくることも出



来なかった総合馬術で今年は4頭揃って完走することができたので、これに関しては良かったといえるのではないのでしょうか。これは総合馬の補強が功を奏した印でしょう。今大会における障害の競技において減点0でゴールを切った人馬がいなかったことを考えると、全日本、そして来年に向けては選手の障害の技術を磨くことが重要で、同時に障害馬の補強も必要になってくるかもしれません。

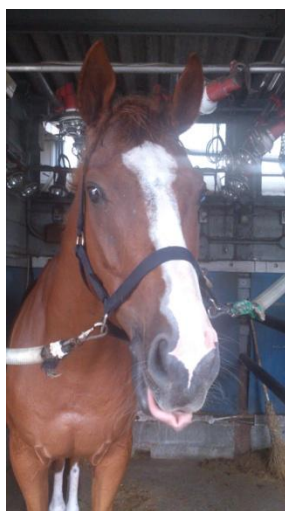


総合では、調教審査で思ったような演技ができなかったため、パーセンテージが伸びず出遅れて4位に終わりました。しかし、昨年度は2頭しか帰ってくることも出



## 新入部員紹介

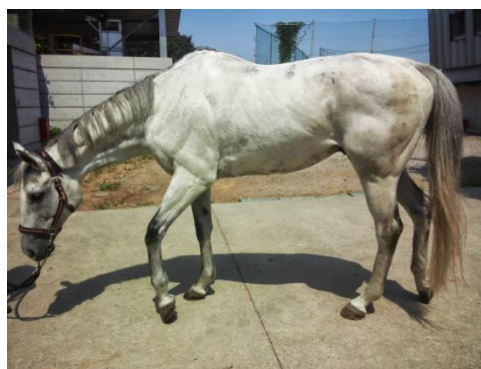
名前	学部	出身校	生年月日	馬歴
北原 侑一郎	教育学部 国語国文学科	早稲田高等学校	1994/7/15	大学から
工藤千明	人間科学部	都立三鷹高校	1993/6/7	少し
田中萌詩	文学部	開智高等学校	1995/1/9	9 年
中西麗子	政治経済学部 政治学科	早稲田大学係属 早稲田実業学校高等部	1994/4/20	7 年
真鍋 安佳理	教育学部 教育学科	大阪教育大学付属 天王寺校舎	1993/11/21	大学から
村田哲農	社会科学部 社会学科	鎌倉学園高校	1993/7/9	大学から
柳田祐介	文化構想学部	早稲田大学高等学院	1995/2/10	大学から



ティンパニ

NSGより譲っていただきました、栗毛でかわいいうちの8歳のセン馬です。左目が不自由ながらも、2012年全日本国内産3課目Aで7位の経験もあります。これからの活躍にご期待ください。

2年 後藤



シンボリグラン

## 新馬紹介

シンボリグランはアイルランド産のサラブレッド、11歳のセン馬です。競走馬時代はG1マイルチャンピオンシップ3着を含む61戦5勝の成績を誇り、現在3年生の島山聖の父である島山吉宏調教師の看板馬でした。JRA馬事公苑での繋養を挟み早稲田大学馬術部にやってきました。人懐っこい性格で障害馬として活躍が見込まれています。

3年 黒田

## 六大学の祝勝会開催さる

2013年4月27日 新宿ライオンにおいて35年振りの六大学優勝を祝して、六大学祝勝会が開催された。競技スポーツセンター所長の川口浩政治経済学部教授、スポーツ振興担当宮内孝知教授をお招きし、OB27名の参加による盛大な会が開催、宮内先生より「早稲田は一番でなければならぬ」という力強い挨拶を



いただいた。また競技の模様をビデオで会場に流し、児玉監督が解説をするという趣向をこらした演出がおこなわれた。35年前の優勝をした元監督安藤OB、その2年前に六大学を優勝している川端副会長のスピーチが心に残った。

早稲田大学馬術部元監督

安藤英夫OBコメント

六大学35年振りの団体優勝おめでとうございませぬ。

川端さん達の代の六大学優勝は安岡さんの代から12年ぶり、久々という事もありました。が厩舎の火事からの復興後初の団体優勝という事で優勝祝賀会を行うに相応しい結果でした。祝勝会はグリーンハウスで行われ、全員がボロボロになるまで酒を浴びたような記憶があります。火事で何もかも失った心を癒してくれたのは団結して手にいれた勝利という結果だったと思います。

僕らの優勝はたった2年後、若干感激も薄れ、また勝てるだろうと思われたのか？祝勝会なんて声も上がらずそのまま葬られていました。今回、35年振りに勝ってくれて我々の記録を掘り起こして頂き素直に嬉しいです

祝勝会のスピーチでは複合で1から4位独

占と話しましたが当時の主将で現在ジャカルタにいる小野里君からFacebookにメッセージが届き、1から3位と6位だったそうです。ただ、複合の障害は堀口、安藤、小野里、大内、尾崎の全員が満点という奇跡的な結果！他校がボロボロと落とす中でパーフェクトな走行でした。これは、一人目の結果が良かったのが大きかったです。チームというのは良い意味でも悪い意味でも連鎖反応を起こすものです。

勢いに乗って中障害でも点を稼げたら安泰でしたが、慶応は三木君がデビューしたばかりの慶山で別次元の走行で優勝、立教の誇る三頭、聖麗、聖山、聖優(名前は不確かです)などの大反撃にあり早稲田は二落下とかでもポイントを稼げず大ピンチ…

何とか複合の貯金を活かして逃げ切れました。当時の早稲田は今の現役の戦力に比べたら各競技での一位を取る様な感じではありませんでした。立教は障害や総合で東大は馬場でチームとして活躍しており、また明治と慶応は個人では全日本で活躍している人馬がいました。こうした状況の中で早稲田が勝つ為には何処かの競技で全員入賞の様な結果を起こさないと勝てません。川端さん達の代は確か学生賞典で3位から6位独占して優勝に辿りついたと記憶しています。

川端さんの代の勝ち方を見ていたので、複合の試合でその再現が出来たのかも知れません。当時

の早稲田の戦力で唯一勝てる方法でした

ところで、僕らは当番校として一つだけ後世に残る改革を試してみたいです。それはスケジュールの変更。前年迄は1日目に新馬馬場、新馬障害、新人馬場、新人障害を2日目に複合、学生賞典、中障害を実施していました。これだと障害を組んだり馬場に戻したりと使役は大変です。これを初日は馬場だけ、2日目は障害と組換えたのは田中達学生幹事団だそうです。当時は監督会もなく、経路までも学生が決めていたそうです。

これも小野里主将からのメッセージで知りました。我々選手団は運営の事は主将の小野里君と幹事の田中君に任せて競技に専念させて貰っていました。裏方として彼らは相当に頑張ってくれていたんだと感じました。感謝です。

さて、川端さんの代の優勝は伏見の厩舎を焼き尽くした火事後の復興後の最初の団体戦勝利だと書きました、二度とあってはいけない惨事です。当時私は高校2年生、川端さんは大学1年生でした。六大学の団体勝利を思い出すとき「火事」の事もどうしても思い出してしまいます。少し当時の思い出も書いてみたいと思います。

7月の終わりに相馬で1000年続く「野馬追い」を見学に行ってきました。「野馬追い」には



アトランタ・オリンピックの後に総合のオリンピック選手であった木幡君が相馬の出身であったことから中野、岩谷、木幡の3選手が参加した際に当時クレインで木幡君に自馬の面倒を見て貰っていた関係で手伝いに行つて以来の参加です。相馬と言えば福島原発から程ない距離、一時は立ち入りも難しかった地域です。確か前回行った時

は福島の原子力発電所の脇を車で北上していった記憶があります。

「野馬追い」の会場は当時となら変わらない様子で大変賑やかに行われていました、ところが一歩外に出て海岸付近の道路を走ると奇跡の復興を成し遂げた原町火力発電所の周辺は一面の草原であることに気づきます。聞くとここはかつては住宅地だったそうです。目をこらしてみると家屋の基礎だけが残されていることに気づきツアアの面々は言葉を失いました。海岸線では護岸工事が行われていました。元あった街並みが戻るにはまだ相当な年月が必要だと感じました。

バスで福島駅に戻る時にはJRAの福島競馬場を通りかかりました。ここも震災で大きな被害があった施設です。高校のインターハイの予選で訪れて以来でした。

そして高校のインターハイ予選から東京に戻り、学院の期末試験の為に高校生は午後当番の任を大学生にお願いしている間に火事が起きた事を思い出しました。試験期間でなければ「火事」の際には高校生としての我々が現場にいたはず。高校生が活動している時に「火事」が起きていたら？という思いが福島競馬場を見て心の中に沸き起こりました。

火事の現場から他の運動部が救出してくれた1頭、火傷を負いながらも自力で逃げ出してきた





1頭、関東学生出場の為に馬事公苑に滞在していた2頭の合計4頭を残して何もかもを奪ってしまった火事、その後他校や日本馬術連盟などから馬や馬具を譲り受け、河川の側に建ち、火災から免れた東京オリムピック、近代五種用の仮厩舎を学校に補修してもらった仮住まいながら練習は再開されました。但し、宿泊設備も焼失してしまっていたので、藁小屋を補修したり、廃材で小屋を自力で建てたり、譲り受けたプレハブで借り仮厩舎を増築したりと馬術の練習というよりもインフラ整備に多くに時間を費やした記憶があります。こういう体験をしたらこれからどんな困難な状況に遭遇しても生き延びていけるのではと感じたことを覚えています。大学生は資金集めの為にいつも以上にバイトに行ったり、また内職を部内でも行っていたので、高校生もその手伝いをしていました。今思えば、他のどの代よりも大学・高校が一丸になって部の再建に向かって心を一つにしていたようにも思えます。あの状況では

そうしないと乗り越えられなかったからだと思います。

他校や日本馬術連盟から譲り受けた馬、新馬として新たに一から調教を始めた馬達が活躍し始めた安岡会長以来12年振りの六大学優勝ができた瞬間の喜びを今も忘れません。今回の優勝で火事のことも含め自分たちの青春時代に起きた様々な出来事を思い出すことができました。ありがとうございました。

部の力は児玉監督のもと確実に向上し、常に全日本に参加できるチーム力になっている様子です。それなのに六大学どうしてこんなに長い間勝てなかったのか不思議に思っていました。明治が六大学を勝ち続けながら関東、全日本での活躍を維持していたように、早稲田も良い勝負を続けていって欲しいと思います。



小野里OBコメント

(小野里OBは海外よりフェイスブックを使いコメントをよせてくれました。ありがとうございます。)

その二年前に川端主将の元で優勝していたので、優勝できて嬉しいというよりもホッとした感じでした。おもいかえすと、仲間と先輩と恵まれていたなと思います。それと運もありましたね。

川端さん達の優勝は安岡さんから12年ぶり、火事からの復興で初の団体優勝という事で優勝祝賀会を行うに相応しい結果でした。僕は優勝はたった2年後(、)そのまま葬られました。

今回、35年振りに勝つてくれて我々の記録が掘り起こされてくれて素直に嬉しいです。

### 思い出の昭和63年卒

白藤 O B

○全日本学生で六位に入賞。

・昭和62年度は、それまで数年間にわたる馬匹の充実や、故月岡監督（当時、「以下同）、安岡嘉彦コーチ、高木進之助コーチ、卒業間もない児玉彰 O Bら錚々たる先輩方の全面的なご指導により、久しぶりに三種目にチームで全日本学生出場を果たし、六位に入賞しました。

・当年度は人間科学部が創設され、女子も増えるなか部員数は二〇名を超え、にぎやかになりました。

・馬匹では、障害のキャリアーセブン、馬の稲英が看板馬。そのほか障害では稲菱、サンタマリア、馬場ではアンジェラスティラ、総合では第二稲菱、マクシミリアンなどが活躍しました。



### ○馬場改修

この年から東伏見の早大グラウンド全体の整備がはじまり、夏休み期間中に馬場が大規模に改修されました。

当時の月岡監督自ら積極的に大学当局と折衝に当たっていただき、長い台形で不整形であった馬場を使い勝手の良い形に整備したほか、放牧や野外騎乗のための施設を設けるなど、幅広い視野での改修が実施されました。

### ○夏合宿 那須トレーニングファーム

馬場の改修期間

中は、馬匹の健康確保も兼ねて、前年に引き続き那須トレーニングファームで合宿を行いました。輸送は大変でしたが、諸先輩方に遠方ご指導においでいただいたほか、競走馬の基礎調教に触れるなど、貴重な体験をさせていただきました。翌年に高速道路上でエンコすることになる馬運車も、この年は何とか持ちこたえていました。帰郷すると馬場の改修が進んでおり、全日本学生に向けた環境整備も十分といった形になりました。



なお、当時合宿先で皆と遊んでいた広田

龍馬少年は、その後同トレーニングファームからシドニーオリンピックに出場し、日本を代表する障害選手となっています。

### ○創部60周年

昭和二年創部から、同年にめでたく六〇年目を迎えました。一〇月には部内外の多くのお客様を迎えして、記念行事を開催しました。



### ○カレーの日

料理好きといえば山木さん。泊りの時にカレーを作ったことをきっかけに、「カレーの日」というイベントを何度も開きました。

当初は部内で食べて飲んでの無礼講でしたが、参加者が次第に増え、関東学生の馬乗りたちが東伏見に集まる大賑わいの会になりました。

### ○語学の早稲田

当時馬事公苑で年に一度、CSI東京という国際大会が開催されていました。

帰国子女が多いのは当部の伝統的なカラーか、外国人選手の通訳として活躍する早稲田の部員が目立ちました。流暢な福島弁に加え、美しいクイーンズイングリッシュを繰る大立目さんは、卒業後英語の場内アナウンスもされました。

た。その後はお仕事で、スペイン語やポルトガル語も得意言語に加えています。

○初の二世部員

柳井(旧姓樽本)さんは、樽本泰知OB(昭和32年卒)のご息女で、当初初の二世部員になりました。吉祥寺からスクーターで部に通い、関東学生女子障害で二位に入賞されるなど活躍されましたが、今後三世部員の入部があるか、期待されるそうです。

その後大藪桂祐OB(昭和40年)のご子息俊介さん(平成6年)も大活躍、二世代で馬事普及に努められているのも皆さんご存知のとおりです。皆子女の教育に力を入れ、部の発展に貢献しましょう。

○浜っ子の関西弁

横浜育ちの飯田さんは、やさしい気遣いとルックス、さわやかな乗馬姿、加えて手堅い馬運車の運転で女子人気NO1でした。卒業後は関西系のメーカーに勤務され、今ではふっと関西弁になります。当時を知る人には驚きかもしれません。

○早慶兄弟対決は？

当時早慶戦では、「白藤っ」と呼ぶ声に二つの返事が聞こえました。慶応高校の馬術部に白

藤さんの4つ下の弟(淳)さんがいたからです。こちらは卒業後もコーチを務めるなど現役の乗り手ですが、早稲田の兄

の方は地方や海外への駐在○あの頃の・四年生などで部から離れることも多く馬術とはご無沙汰、○(主将、商)、B戦での兄弟対決はなさそうです。

○最後の種山合宿経験者

山木さんと白藤さんは、昭和56年に学院1年生部員として種山合宿に参加しました。岩手の世間から全く隔絶された牧場での、過



白藤努(主務、法)



飯田秋彦(二文)



柳井(旧姓樽本) 里美

(二文)



山木健弘(理工)



酷な種山合宿の最後の経験者が卒業し、次年には平成に入り、文字通り新時代となりました。

○あの人は今

近年でも部にキャンピングカーで泊まり込み、コーラルウインドを育てられた大立目さん。今も南米で公私にわたり活躍中との報告です！

「現在の駐在地、コロンビアでは自馬を一頭所有し、週末及び平日の出勤前に騎乗しています。最近では競技会にも出場しています。以前、チリにいた時も二頭、自馬を持っていました。南米は乗馬するのに良い環境です。」

○現役部員にひとこと

・一生の中で、

これだけ良い環境の中で馬術に打ち込めるのは大学時代を除いては中々ないと思います。後で後悔しない様、精一杯頑張ってください。(大立目)

・馬術はひとりではあるスポーツではありません。馬に感謝、先輩に感謝、後輩に感謝の気持ちを持って、日々の活動を楽しんでください。(白藤)



## 平成二十四年度 定時総会 開催 される

平成二十四年度定時総会が六月二十三日(日曜日)午後三時より、早稲田大学・東伏見馬場総合棟二階で開催されました。

総会は齋藤副会長(事務局兼任、昭五〇)の司会で始まり、会則により安岡会長(昭四一)が議長に就き、開会を宣言しました。

### 出席の状況

総会員数三三八名(平成二十五年六月二十三日現在、不明会員七二名含む)中二二名出席。  
名古屋俊士、大塚次朗(昭三四)、榎田不二男(昭三五)陶久清(昭三八)、大藪桂佑(昭四〇)、安岡嘉彦、齋藤晃、川端昌美(昭五二)、大内敏光(昭五四)、尾崎聖治(昭五四)、児玉彰(昭五九)、伊藤六一(昭五九)、倉田孝之(昭六〇)、清水唯弘(昭六一)、寺田佳代(平六)、橋本康太(平九)、田中俊司(平九)、原田晋輔(平十七)、平野和貴(平二二)、秦慧州(平二三)、恒光一将(平二三)池田幸太郎(平二四)

### 【決議事項】

第一号議案：「平成二十四年度 事業報告 並びに  
会計報告」

① 理事会、② 定時総会(平成二十四年七月一日)、③ ホースカミングデー(平成二十四年二月一日)、④ 初乗り会(平成二五年二月十日、紅白戦同時開催)をそれぞれ開催した。

⑤ 会報「稲啼」の発行(平成二四年八月九日、平成二五年二月二〇日)、⑥ 会員名簿の更新(連絡先不明会員も漸増した)

⑦ 稲門体育会総会への出席 及び 年間維持会費(八万円)の納入(平成二四年五月一日)

⑧ 全早慶戦(当番校 慶応義塾) 優勝 早稲田(平成二四年十二月二二～二三日、於 日吉馬場)、⑨ 全早学戦(当番校 早稲田) 優勝 早稲田(平成二四年九月二二～二三日、於 東伏見馬場)

⑩ 馬術部への補助金支出(予算どおり百万円の補助を行った)、⑪ 関東学生OB戦参加(平成二五年三月一〇日、補助を行った)、⑫ 関東学生春季馬術大会「(六大学、八大学)への協賛 優勝 早稲田大学(平成二五年三月二九～三一日 於 JRA馬事公苑)

⑬ 原名誉会長慰労会(有志活動、平成二四年九月十五日 於 ガンシップ)

⑭ 会費収入について

百十三名(内自動引落し百名、その他十三名)の  
会員から会費の納入があった

第一号議案の説明の後、齋木会計監事(昭五二)

による会計監査報告が大内会計担当理事により  
代読され、「会計処理は真正であり、重大な違反  
事実は認められない」旨宣言されました。

続いて審議を行い、議長が議案の承認を議場に  
求めたところ満場一致で承認・可決されました。

第二号議案 「平成二十五年度 事業計画 並びに  
予算案」

① 理事会、② 定時総会(平成二五年六月二三日)、③ ホースカミングデー、④ 初乗り会、⑤ 忘年会をそれぞれ開催する。

⑥ 広報活動の充実(会報、メールマガジン等の情報媒体の定期・随時発行)、⑦ 会員名簿の更新

⑧ 会員慶弔の実施

⑨ 稲門体育会総会への出席、及び年間維持会費(八万円)の納入(平成二五年五月一七日、大塚代表委員、安岡、岩澤、齋藤、児玉出席)

⑩ 全早慶戦(二二年二八、九日 於 東伏見馬場)の開催、⑪ 全早学戦(九月二二、二三日 於 目白馬場)の開催

⑫ 馬術部への補助金支出(百万円)、⑬ 関東学生OB戦への参加、⑭ 関東学生春季馬術大会「(東京六大学、八大学)への協賛

⑮ 会費収入の増収推進

続いて審議を行い、議長が議案の承認を議場に

求めたところ、満場一致で承認・可決されました。

第三号議案「平成二十五年・二十六年人事」

①「会長の選出」

今次総会は役員改選期にあたるため、先ずは会長の選出を行いました。理事会の推薦により現会長の安岡嘉彦を候補として議場に諮ったところ、満場一致で承認・可決されました。

②「副会長、理事、監事の選出」

同様に。理事会の推薦により現副会長の米山順(昭四三)、齋藤晃、川端昌美の三名を候補として議場に諮ったところ、満場一致で承認・可決されました。

また、理事、監事についても次の方々が選出されました。

理事：榎田不二男、菅 修一(昭三七)、陶久清、大藪 桂佑、平山 百子(昭五〇)、尾崎 聖治、児玉 彰、伊藤 六一、倉田 孝之、橋本 康太、田中 俊司

監事：齋木 修次、大内 敏光※ 新任、他は重任

③「体育会代表委員及び校友会代議員の推薦」

齋藤晃(昭五〇)が推薦され、稲門体育会並びに早稲田大学校友会に登録申請されます。

第四号議案「会則の改訂」

改訂の趣旨：稲門乗馬会の運営部隊は、卒業年次で昭和世代から平成世代に移行すべきではないかと考えます。その理由は、

①稲門乗馬会の構成員(会員・賛助会員)のボリュームが、昭和世代から平成世代に移りつつある、

②理事の高齢化により、理事会の会務に対するレスポンスが劣化しつつある、

③現状継続による組織の硬直化が懸念される、等々によります。

また、馬術競技運営に関する考えや、大学の学生スポーツに対する取組みも変わってきている現在、新世代による対応が急務であると考えます。

つきましては、理事会の他に幹事会を設け、会務の企画・運営に当たって頂くことが適当と考え、制度設定のため会則を改訂するものです。詳細は別紙をご覧ください。

第五号議案「幹事会の設置並びに役員を選任」

会則改訂に伴い幹事会を設置し、幹事を次のように選任いたしました。

幹事長 橋本 康太、副幹事長 田中 俊司、幹事 倉田 孝之、白藤 努、栗原 雅男(平元)、原田 晋輔、金坂 剛嗣(平一八)、会沢 辰介(平二〇)、平野 和貴、秦 慧州、恒光 一将、池田幸太郎(平二四)、佐伯 俊彦(平二五)

《担当会務》

会計担当 平野 和貴、名簿管理 秦 慧州、会報担当 倉田 孝之、白藤 努、議事録担当 金坂 剛嗣

※馬術部

部長 名古屋俊士(理工学術院教授)

監督 児玉 彰

馬術部コーチ 伊藤 六一(助監督)、宇治 帆高(平二二)、寺田 佳代、田中 俊司、橋本 康太、池田幸太郎

体育実技講師 倉田 孝之

報告事項

「馬術部の現況」

以上

## 早稲田を支えた名馬たち

## 稲吹雪の思い出

昭和 59 年法卒 互 敦史

私は、昭和 53 年 4 月に早稲田大学に入学し、体育実技で馬術を取って初めて東伏見に行った際、馬術の魅力に取りつかれて即座に入部し、そのまま 4 年間、馬術三昧の生活を続けて、昭和 59 年 3 月に卒業しました。児玉監督と伊藤副監督は、私の同期です。

私は、それまで馬に乗ったことはもちろん、馬を近くで見たことすらありませんでしたが、そんな私にとって、稲吹の印象は、結構強烈でした。

当時の早稲田大学馬術部は、競馬上がりの馬が多く、稲吹雪もそのうちの一头でした。どうか、一頭だったと思います。なぜそんなことを言うかと申しますと、私が入部した時、すでに稲吹雪は入厩しており、当時の私は、入厩の経緯は知りませんでした(※)、稲吹雪の競馬時代の名前は不明であり、「アラ系。父母不詳」ということで、要するに「どこの馬の骨だか分からない馬」でした。ある先輩は、「稲吹雪は、八百長競馬に出ていたんだ。それで氏素性が秘密なんだ。」などと言っていました。

私はこの話を聞いて、「八百長競馬ってどこの競馬場でやってたんだ？それって本当か？」と思いましたが、私は、競馬の馬券を買った経験がありません(昭)でしたので、「ああ、そうなんだ。」と信じてしまいました。いまだに真偽不明です。

※ 田中先輩や深谷先輩のお話では、元吉監督が筑波ライディングパークから譲り受けてくださった馬だそうで、稲吹雪という名前も、元吉監督が命名したそうです。

稲吹雪は、見た目がズングリムックリで(馬のマッチョマンという感じ)、サラブレッドではないことは素人の私でもわかりましたので、「アラ系」という血統は、たぶん本当だと思います。

ということで、稲吹雪には、サクラローレル(稲淳)といった競馬時代の名前も、父・パーシア・母ウイロップ(稲鎬)といった両親の名前もありませんでしたので、紅白戦の馬学では、一番初めに覚えることができたという点では、結構、お得な馬でした。

稲吹雪は、とても性格が穏やかで、人を噛んだり蹴ったりといったことは絶対にならないので、手入れをする上では、本当に手のかからない馬だったのですが、人を乗せると人格ならぬ馬格が変わる馬であり、名前のとおり、とにかくブンブン走り回ります。稲吹雪に乗っている

と、猛吹雪の中にいるような風の音と、「早く止める。」と怒鳴る先輩の声しか聞こえませんでした。

そうこうするうちに時は移り、私も上級生になって、稲吹雪は自馬になりました。

そして、児玉の勧めで、当時、馬事公苑でやっていた総合馬術の合宿に参加することになりました。こういう馬ですから、馬場馬術の競技会に出るなんて夢にも思わず、障碍馬術の試合に出ると埒まで飛んでしまいますので、残った可能性としては、総合馬術しかなかったのです。

この合宿に参加したことが、私にとっても稲吹雪にとっても、一大転機になりました。この合宿では、馬事公苑の職員である渡辺さんという方と宮崎さんという方がコーチとして我々の練習を見てくださったのですが、合宿が始まって早々、いつものように走られないよう手綱をグイグイ引いて稲吹雪と格闘していた私の姿を見た渡辺さんが、「両手の力を緩める。手綱を伸ばせ。」と言ってきました。私は、「そんなことしたら走っちゃいます。」と言ったのですが、渡辺さんが、「つべこべ言わずに言われたとおりにしろ。」と言うので、私は、「どうなっても知らないぞ。」と思いながら、言われたとおりにしました。

案の定、稲吹雪は、「待ってました。」とばかり

りにブンブン走り出しました。これを見た渡辺さんから、「そうだ。もっと走らせる。」という指示が出ましたので、私は、この指示に従い、さらにブンブン走らせました。すると、どうでしょう。いままで乗り手との格闘で、頭を高く上げ、背中をそらせるように走っていた稲吹雪の頭が徐々に下がり始め、コチコチだった背中の力も抜けていきました。

渡辺さんは、「そうだ。それでいい。それがその馬の本来の走る姿だ。」とおっしゃいました。

そうです。馬と人は戦うのではなく、協調していくものなのだ。ということですね。馬と乗り手は友人（パートナー）であるべきなのです。考えてみれば当たり前のことだったのですが、その当たり前のことがずっとわからず、稲吹雪と長い間不毛な戦いを続けてきたのでした。

その後、この合宿では、稲吹雪が乗り手である私を信用し、ハミを受けてくれるようになるまで彼との協調が進み、長年の課題だった稲吹雪を「御す」ことが、曲がりなりにもできるようになりました。

合宿が終わって東伏見に戻り、東伏見の馬場で稲吹雪に乗っていると、ある後輩が、「稲吹雪がなんだか馬場馬みたいに見えます。」と言ってくれました。

その後、私は、稲吹雪で関東学生の総合馬術

大会に出場し、2日目の耐久競技では、何度も止まりながらも、何とか完走することができました。芝馬場のバンケットを降りた後の水壕で2回止まってしまい、万事休すかと思いましたが、3回目で何とか飛んでくれ、最後の障害もクリアしてゴールした瞬間を今でも昨日のように覚えています。

稲吹雪は、3日目の余力でも失権することなく、早稲田大学馬術部にとっては、久しぶりに総合馬術の全国大会の切符を手にすることができました。

私は、その後、馬術部を卒業し、ほどなく稲吹雪も現役を引退して、ユーカーリ牧場で余生を送ることになりました。

私は、当時交際していた女性（現在の妻です）も馬に乗ることから、稲吹雪に会いに一緒にユーカーリ牧場に行きました。

稲吹雪は、現役時代と違ってずいぶんとスマートになっており、かわいそうな気持ちになりましたが、彼は、私が総合馬術で酷使したせいで前肢の膝を痛めていましたので、体重を減らさずいふんと楽になったのではないかと思います。

残念ながら、稲吹雪の最後に立ち会うことはできませんでしたが、彼は、今でも私の中に生きています。穏やか

で我慢強く、私の未熟な技量をカバーしてくれ、膝が痛いなどといった泣き言も言わず、淡々と障害を飛んでくれた彼に今でも心の底から感謝しています。

彼は、最高の友人（パートナー）でした。



## 幹事長の就任のあいさつ

平成九年卒

橋本康太

この度、齋藤先輩、倉田先輩のご推挙を頂き、先日の稲門総会でご承認いただきまして、幹事長に就任致しました。

私が現役の折は、先輩方の多大なご支援のおかげで、人生の中で掛け替えのない時間を過ごすことができました。また、引退後も、これまで稲門会の諸業務について、先輩の皆様方に頼りきりでありました。

これからは平成卒業以降の世代が中心の幹事会メンバーで、頑張って行かなくてはと思います、お引き受けした次第でございます。

幹事会では、初乗り会、ホースカミングデーなどのイベントの企画運営や、会報の発行送付、会員名簿の整理などを行ってまいります。

また、稲門会費納入について、皆様のご協力を仰ぎ、現役学生の支援をしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

## 幹事会開催

6月の総会で新任された新幹事による幹事会が7月28日(日)9月1日(日)東伏見総合棟にて開催された。新任の若手幹事が中心となり、活発な討論がおこなわれた。

まず緊急の課題が名簿の整備。会員の住所が変更され、会報が返送されることもあり、秦OBは中心に名簿の整備を行うこととなった。今後住所変更があれば、秦OBに連絡してほしい。

また馬術部への支援金を今後継続して行うためには会費の徴収を強化することが課題であることが確認された。各年代ごとに声をかけあい、会費の徴収を強化することとなった。稲門の会計は決して余裕のあるものではなく、毎年100万円の支援を馬術部に継続していくためには会費増収はどうしても行わなければならない喫緊の課題といえる。会員の皆さまの協力をお願いしたい。

馬術部会計の佐藤より、馬術部の財政状況の説明があり、借金があることはないが、決して余裕がある状況ではないこと、馬糧費が高騰していること、20頭の馬を飼育するにはここ数年で馬糧費は100万円ほどの支出増となっている状況の説明があった。学生たちも競馬場でのバイトを増やすなどアルバイト収入を上げてやりくりしているとのことであった。

主将の長谷部からは総合馬はOBの皆さまの協

力により補強されたが、馬場馬の高齢化が進んでいる現状があり、長い目で見ると補強の必要があること。今年の特東では障害馬が2頭しか完走できなかったことから、障害馬の補強の必要性があること、部員の人数も多いので、1・2年生が障害を気軽に練習できる障害馬も必要であることなどが説明された。

また来年の全日本は関西であり、今後3年に1回は関西での開催が決定している旨の説明が児玉監督よりおこなわれた。さらに馬運車の老朽化がすすみ、毎年20万円近くの出費をして修理して何とか使用していることから、長い目で見ると馬運者の買い替えの問題も出てくることになることが指摘された。

白藤OBより理事のほうから提案された馬術部支援のための運営基金創設について具体化するため大学での指定寄付利用方法についての説明があった。今後理事会で話し合い具体化を目指したい。幹事会としては会費増収に力を入れていく旨が確認された。橋本OBより会費を値上げするということの考えられるのではないかと指摘もあった。

ホースカミングデイについては10月27日、池田OBが企画して進行予定。

以上が新設幹事会での討論の内容です。ご意見あればぜひお聞かせください。(文責 倉田)



編集協力金のお礼

前回の会報にて継続発刊のため編集協力金をお願いいたしましたところ、先の方々より入金をいただきました。

おかげさまで稲門会報も順調に発刊できました。ご協力ありがとうございます。今後も継続発刊ができますよう多くの皆さまの志を待ちしております。(倉田)

(敬称略) 以下 入金者名入力予定

ドンニーマスプレ号の出厩について



ました肢の怪我也快方に向かいつつありましたが、怪我による長期の休馬や高齢のため体力が落ち、練習時間もごく限られたものとなってしまいました。私個人としてドンニーとの思い出はとて強く残っています、中学1年のころ、走られて、初めて落馬を経験したのもドンニーに乗った時のことでした。

障害も馬場も器用にこなす練習馬だったドンニーに乗る機会は多く、高校生の時には馬場の試合に出させていただきました。ドンニーは、初めての馬場の試合で緊張していた私を乗せて正しく経路を回り、退場するところまで頑張ってくれました。今でもとても感謝しています。あるときは総合馬として、またあるときは馬場馬として、大いに早稲田の馬術部を長い間支えてくれたドンニーが元気に余生を過ごしてくれるよう祈るばかりです。

平成25年6月4日(火)をもちましてドンニーマスプレ号が、早稲田大学馬術部厩舎より出厩いたしました。今後は東京大学馬術部にて練習馬として余生を過ごす予定です。

1年 中西麗子

出厩間際のドンニーは、かねてから抱えており

# 今後の試合日程

- 2013年11月1日(金) ～ 6日(水)  
「全日本学生馬術大会」
- 2013年11月23日(土) ～ 24日(日)  
「早慶戦」
- 2013年11月30日(土) ～ 12月1日(日)  
「関東学生女子自馬競技大会」
- 12月7日(土) ～ 8日(日)  
「JRAジャパンブリーダーディングホースシヨール」
- 12月14日(土) ～ 15日(日)  
「全日本学生選手権大会」

応援よろしくお願いいたします。

編集後記 4年三宅紘一

2013年「稲穂」秋号、一期遅れての発刊となりました。OBOGの皆様にはお待たせしましたこと、お詫び申し上げます。

今年度、早稲田、学習院との対抗試合は第60回目を迎え、天皇后両陛下がお見えになられるという一大行事となりました。私自身も人馬整列時に陛下へと敬礼をさせていただくという荣誉、また写真の撮りすぎで皇居警察に肩を叩かれるという貴重な経験をさせていただき、恐縮の極みでありました。今後とも早稲田、学習院ともども成長を願わんばかりです。第60回早学戦については次ページから特集を組んでおりますので、ぜひご覧ください。  
4年の秋を迎え引退まで残り少なくなってきましたが、最後まで気を抜かず精進してまいります。



1年 村田 哲農

4年 佐藤友幸

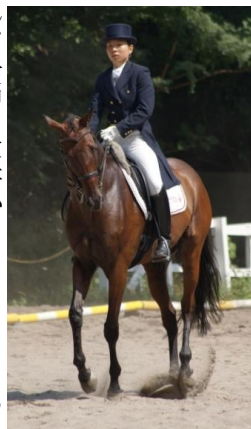
# 第60回早学戦結果

第60回早学戦記念大会で優勝

平成25年9月21日、2日に学習院馬場において、第60回早学戦記念大会が行われた。22日の現役中障害は、天皇陛下並びに皇后陛下のご臨席のもと、熱戦がくりひろげられ、最終第6競技を勝利した早稲田大学が優勝した。メイン競技となる現役中障害が始まる直前に両陛下が到着されると出場人馬が整列、敬礼をし、競技がはじまった。



早稲田2頭と学習院1頭が満点で走行、ジャンプオフがおこなわれ、早稲田の五十嵐と稲隆が優勝した。その後懇親会がお



**◆第2競技**  
学生賞典馬術競技  
1位 畠山&リアルヴィジョン 58.981%  
2位 五十嵐&ファイネス 58.888%

こなわれ、早稲田大学からは総長の鎌田薫が挨拶をし、両校の現役・OBの交流が深められた。両陛下は学生・OBにきさくに声をかけてくださり、大変感慨深い会となった。次回70回の記念大会でも両陛下のご臨席を心よりお待ちしております。(文責倉田)

**◆第1競技**  
馬場馬術 3課目B  
1位 三宅&コラルウインド 63.115%  
4位 暮地&稲麟 57.24%  
6位 長尾&稲武 56.73%  
9位 佐藤&稲彩 53.98%

3位 廣兼&Gグラナダ タイム69.54  
0 障碍減点  
点8 総減  
点8  
2反E 栗  
栖&稲斗  
2反E 工藤&コラルウインド

4位 後藤&稲武 55.964%





◆第4競技 高校生障碍飛越競技

2位 安藤&トリトンS タイム66.

7 2 タイム減点0 障碍減点16 総減点

16

2 反E 下&コーラルウインド

◆第6競技 現役中障碍飛越競技

1位 五十嵐&稲隆 タイム74. 52

総減点0 JOタイム38. 07

2位 畠山&稲斗 タイム74. 25 総

減点0 JOタイム47. 47

4位 長谷部&稲帥 タイム66. 34

障碍減点4 総減点4

2 反E 大澤&稲玄

◆第5競技 OB障碍飛越競技

●小穴OG&貴桜 タイム81. 31 タイム

減点2 障碍減点4 総減点6

●恒光OB&トリトンS タイム68. 25

タイム減点0 障碍減点20

○秦OB&矛桜 タイム77. 75 タイム減

点1 障碍減点4 総減点5

●池田OB&コーラルウインド 3反E

総合優勝 早稲田大学

総合準優勝 学習院大学